

# 演習Ⅱ

担当者 西井 進剛

開講時期 通年 単 位 8

## ●講義の概要

本講義の目的は、演習Ⅰで学んだ内容に基づき、実際に受講生が修士論文を完成させることにある。前期では、演習Ⅰで学んだ内容を振り返りながら、研究計画書の作成を行う。研究計画書を作成する過程において、研究テーマの選定、先行研究のレビュー、方法論の検討を行う。受講生には、夏季休暇を活用して、調査に取り組んでもらうことを想定している。後期では、研究の進捗状況や論文の執筆状況を毎回報告してもらい、その都度確認をとりながら、修士論文の完成を目指す。

## ●講義の到達目標

修士論文を執筆するための方法論、具体的な技法について習得する。研究計画に基づき、修士論文を完成させる。

## ●講義計画

第1～5回 最初のテーマ設定と先行研究のレビュー  
第6～10回 テーマの確定と研究計画の立案  
第11～15回 研究計画書の完成  
第16～20回 中間報告に基づいた論文の構成の検討  
第21～24回 研究の進捗状況及び論文の執筆状況の確認  
第25～30回 論文全体の推敲

## ●成績評価基準と方法

- ・修士論文を執筆するための方法論、具体的な技法について習得している（20%）
- ・修士論文を執筆するための適切な研究計画を立てることができる（20%）
- ・修士論文（40%）
- ・修士論文の内容のプレゼンテーション（20%）

## ●テキスト又は参考文献

- ・伊丹敬之（2001）『創造的論文の書き方』有斐閣。
  - ・戸田山和久（2022）『最新版 論文の教室』NHK出版。
  - ・野村康（2017）『社会科学の考え方』名古屋大学出版会。
- 研究計画書の内容に応じて適宜論文、専門書等を用いる。

## ●受講上の留意点

修士論文を完成させるためには、多大な労力と時間を要する。そのため、日々の生活において十分な時間を確保できるように努めて欲しい。できるだけ精度の高い研究計画を立案した上で、研究を進めることが要点となるが、どうしても予定通りに進まない、研究成果が出ないということも予想される。そのような時は、決して遠慮せず、指導教員にこまめに相談して欲しい。